

有機ELモニター「PVM-2551MD」に関してのご使用経験をお伺いいたしました。

医療法人 荘和会 半蔵門胃腸クリニック
理事長 掛谷和俊先生



プロフィール

半蔵門医療クリニック創設者。現在まで20万人以上の食道・胃・大腸内視鏡検査、及びポリープや癌の切除手術を無事故で行っている。特に食道癌や胃癌では、ほとんどすべてを数ミリ単位の大きさで発見し完治させている。

半蔵門胃腸クリニック様はオリコン・エンタテインメント社「患者が決めた!いい病院ランキング2007年度版」胃・大腸内視鏡検査・治療部門 総合満足度1位に選ばれています。

有機ELモニターご導入のきっかけはどのようなものでしたでしょうか？

極初期の段階の癌においては、病変が平べいなので発見が非常に困難である。従って、色調の微妙な変化が診断の決め手となり、特に食道癌、胃癌の検査ではモニターの精度が診断力に強く反映される。

そのため当院では常に最高の画質を求めてきたが、残念ながらこれまで使用していたモニターの画像に物足りなさを感じていた。

そんな中、クリニックに診察に来ていたソニー社員(技術者)から、たまたま有機ELモニターの存在を聞いた。

実際にデモにて実物を見たところこれまで使用していたモニターと比較して画質の良さを感じられたため即導入に至った。

有機ELモニターのメリットについてどのようにお考えでしょうか？

コントラストが非常によく感じられ、また黒が真っ黒である。

加えて色合いも良いため微細な診断をする際には非常に向いていると感じる。

内視鏡の映像には遠近感があり、診断においては近くから見た診断(近景)と引き気味に見る診断(遠景)の両方が必要であるが、特に遠景のときに色が鮮明にでていて解りやすい。

これまで使用していたモニターでは奥の方が暗くなってしまうが、有機ELは奥までが鮮明に見えるため診断のし易さにつながる。

また液晶モニターに比べて残像感も少ない印象がある。

特にどのような分野で有機ELモニターの有効性があるとお考えでしょうか？

腹腔鏡手術には向いている。また、気管支鏡は筒状になっており奥まで光が届き辛いいため遠くの映像が見えにくい。

奥の暗い部分の映像が鮮明に見える有機ELはこの領域では威力を発揮するだろう。

今後の医療モニターへの期待などはどのようなものでしょうか？

モニターレベルで輪郭強調などのエンハンス機能があるとよいのではないかと。内視鏡にもついているが、それがモニター自身でもできるとより便利になるのではないかと。また3D映像などについても有機ELで見れるようになることを期待したい。

メディカル関連機器の商品情報やお客さま事例をご覧ください。

sony.jp/medical/

ソニービジネスソリューション株式会社 / 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

商品に関するお問い合わせは

業務用商品相談窓口

フリーダイヤル ☎ 0120-788-333

●携帯電話・PHS・一部のIP電話からは 050-3754-9550

●FAX 0120-884-707

●受付時間 9:00~18:00 (土・日・祝日、および弊社休業日は除く)

2014年3月現在